



サクラソウ

142 編は端書に **マスキール**。**ダビデの詩**。**ダビデが洞穴にいたとき**。**祈り**。とあります。**マスキール**とは、静かに深く、真剣に、瞑想するという意味合いです。また、**洞穴**とは、**ダビデ**がサウル王を逃れて潜んでいたアドラムやエン・ゲディなどにありましたが、そのほかにも、荒地の山地の**洞穴**や、洞窟の中に要害を構えて、その中に潜んでいたかもしれません。

最初に、**声をあげ、主に向かって叫び／声をあげ、主に向かって憐れみを求めよう。(2)**と、二度も**声をあげ**という言葉を用いています。静かに瞑想した後でしょうか。あたかも泣きながら、主に呼びかけているかのようです。

日本では「男は泣いてはいけない」と言われてきましたが、イスラエルでは勇者でも泣きます。

続いて **御前にわたしの悩みを注ぎ出し／御前に苦しみを訴えよう。(3)**と、主の前に詩人の苦悩、苦痛、苦難のすべてを告白しようとしています。具体的に二つのことを訴えています。第一に自分自身のことです。**わたしの霊がなえ果てているとき／わたしがどのような道に行こうとするか／あなたはご存じです。(4a)**と、霊性が枯渇している時、すなわち、神との祈りによる交わり、神からの支えがない時、詩人は **その道を行けば／そこには畏が仕掛けられています。(4b)**と、誘惑、計略が待ち構えていて、窮地に陥るのだと、言います。逆に言うならば、霊の交わりを熱望しているということでしょう。第二に詩人の立ち位置です。**右に立ってくれる友もなく／逃げ場は失われ／命を助けようとしてくれる人もありません。(5b)** 助けてくれる友、支えてくれる人、取り成してくれる知人もなく、どこにも逃げ場がない。暗い、湿った洞穴に潜んでいるしかない、孤独と絶望の日々を訴えています。

2 連では、再び、**主よ、あなたに向かって叫び、申します(6)**と、祈りの声をあげます。詩人にとって、**「あなたはわたしの避けどころ／命あるものの地で／わたしの分となってください方」と。(6)**と、主が **避けどころ** (避難所)であり、**わたしの分** (一生の願い)であると告白しています。けれども詩人は **甚だしく卑しめられています。(7a)**と、訴えます。詩人より強い者が迫害し、詩人の魂もその手の中にあると言います。**わたしの魂を枷から引き出してください。(8a)**と、詩人を縛り付けている外的、内的 **枷**からの解放を願っています。苦難に襲われる時には、命が脅かされると同時に、**霊**が衰え、**魂**も自由を失うことになるかと悲しんでいます。このことは詩人にとって最大の苦しみであると同時に、あつてはならないことなのです。神が祈りを聞いてくださることによって、霊的に満たされ、救われると訴えています。**あなたの御名に感謝することができますように。主に従う人々がわたしを冠としますように。あなたがわたしに報いてくださいますように。(8b)**と、私を救うことが、民の感謝となり、喜びになるのですと、信仰の **報い**を求めて、取引を請求しているかのよう、主に祈り求めています。

『讚美歌 21』には関連讚美歌がありませんが、私は 456「わが魂を愛するイエスよ」を賛美したいです。 <https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2012-05-03>

ジュネーブ詩編歌は 2 つの曲想による賛歌ですが、変奏豊かなリコーダーとオルガンの合奏です。 <https://www.youtube.com/watch?v=MbSy2JpVe9k&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=142>